

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人愛成会	代表者	理事長 佐々木 哲	法人・事業所の特徴	法人の「愛・行動・感謝」という基本理念に基づき、事業所として『私たちは、利用者様一人ひとりを【尊重】し、【自分らしさ】と【生きがい】を持って、安心して暮らしが継続できるよう支援します』の理念を掲げ、ご利用者様にとって安心と信頼を得られる福祉サービスの実践に努めます。
事業所名	小規模多機能ホーム 自由ヶ丘	管理者	佐藤 史		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	3人	人	人	1人	人	6人	人	11人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	地域の方が気軽に相談や協力を依頼できる開かれた事業所となるべく、地域に向けての情報発信や協力を実施していく。	地域住民と交流する機会が乏しいこともあり、結果として地域住民が気軽に訪れるまでは至っていない。	地域住民、利用者に頼られる事業になるべく、これからも頑張ってもらいたい。	今一度、職員個々に意識して事業所自己評価9項目に取り組むことで、結果的に利用者及び地域住民から頼られる事業所を目指す。
B. 事業所のしつらえ・環境	快適（居心地のよさ）と安全（感染対策）の両立を意識した環境作りを常に意識し取り組む。	常に整理整頓や室温管理、体調不良者が発生した際の対応等を心掛け、利用者や訪れる方が快適かつ安全に過ごすことができるように配慮することができた。	感染者が発生した場合の隔離対応ゾーンを、普段過ごす場所と別空間に設けることで安心して過ごすことができていると感じる。	利用者はもちろん、事業所を訪れる家族や地域住民が快適に過ごすことができる空間づくりに努める。
C. 事業所と地域のかかわり	デジタル（SNS）とアナログ（パンフレット）の両方を有効活用し、事業所の存在と機能、取組みを継続的に発信していく。	インスタグラムで定期的に行事の様子や取組みを発信した結果、フォロワー数が昨年度よりも増え、現在1,350人程度となっている。有効な情報発信ツールとして定着している。	SNSは家族や利用を検討している方に対して知っていただく材料となっていると思う。新たな担い手にも興味をもってもらえるように頑張って発信を続けてほしい。	引き続き家族はもちろん、地域の方や興味のある方に身近な存在として認識していただけるよう、事業所の特徴や取組みを定期的にSNSで発信していく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	常に感染対策や感染状況を把握しながら、利用者も職員も積極的に地域に出向く機会を確保していく。	感染症に配慮しながら、地域へ出かける機会を増やすことはできたが十分でない。	新型コロナウイルスもだいぶ落ち着き、外へ出かける機会が増えたことは利用者にとっても喜ばしいことではないか。大変だと思うが、家族が連れ出すのは難しい方もいると思うのでぜひ継続してほしい。	利用者の心身機能の維持・回復、生きがいや楽しみを創出するためにも、担当が主となり地域に出向く機会を確保していく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	運営会議を有効活用して地域のニーズを把握し、ニーズに合った取組みを検討し実現する。	地域のニーズを上手く拾うことができず、結果として側溝清掃への参加のみとなった。	地域の高齢化が顕著で、様々な活動が縮小若しくは実施できない傾向にある。	金属団地町会総会や運営推進会議の場、回覧板等から、地域の行事や活動を確認し事業所として積極的に参加、協力する。
F. 事業所の防災・災害対策	災害発生時には町会に対して物的、人的に支援できるよう、町会長と連携を密にしていく。	地域で災害が発生することはなかったが、備蓄や福祉避難所としての機能を説明し、いざという時の連携を運営推進会議の場で確認することができている。また、南高校にて開催された「みなみ防災デー」へは参加することができた。	金属町でも自由ヶ丘町会でも定期的に防災訓練を開催できていない状況である。防災士の資格取得のハードルが高いのも開催できない原因の一つとなっている。	運営推進委員の方々へ事業所の防災訓練への参加を呼び掛けると共に、地域の防災訓練が開催された場合には積極的に参加、協力する。